

令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議 議事録

日時 令和4年10月7日（金）14:00～14:40

場所 八戸市庁本館4階 会議室A

○司会（八工大・高橋）

ただいまから「令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議」を開催いたします。

はじめに、本日本日お配りした会議資料を御確認いただきたいと思います。本日の会議資料は、次第、出席者名簿、席図の3枚と、資料1としまして「令和3年度第2回八戸産学官連携推進会議の議事録」、資料2「産学官連携による八戸未来創造中長期計画進行管理指標集計結果」となっております。資料2が2枚に分かれております。資料3「八戸地域学について」となります。過不足等はありませんでしょうか。

それでは議事に入りますので熊谷市長に進行をお願いいたします。

○熊谷市長

それではしばらく間、議長を務めさせていただきます。

まず、「案件（1）令和3年度第2回推進会議の議事録」について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（八学大・田中）

それでは「令和3年度第2回推進会議の議事録」について御説明を申し上げます。

資料1の「令和3年度第2回八戸産学官連携推進会議議事録」をお手元にお配りしておりますが、本日は要点のみ御説明いたしますので、後ほど内容を御確認いただきたいと思います。

前回の議事におきましては、（仮称）八戸地域学の創設に向けた試験配信を行いまして、その結果報告についてと、同じく、（仮称）八戸地域学の創設に向けた令和4年度計画案についての2項目に関して、委員の皆様から御議論いただき、（仮称）八戸地域学の創設に向けて様々な御意見を賜ったところでございます。

また、産業教育についても意見交換を行い、地域産業の活性化や人材育成の重要性、文化的・歴史的視点により地域を知ってもらうことの必要性等について御発言をいただいたところでございます。議事録につきまして事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷市長

ただいまの説明に対して御質問・御意見ございませんでしょうか。後でじっくり御覧になっていただくということでよろしいでしょうか。

続きまして、案件2「令和3年度進行管理指標集計結果」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（八学大・田中）

それでは引き続き、「令和3年度の進行管理指標集計結果」について、御説明を申し上げます。資料2を御覧ください。「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」の進行管理指標のデータをまとめたものとなっております。

まず、1ページ目は、6つの指針ごとに進行管理指標を定めた一覧でございます。続いて、次のページのグラフを御覧ください。6つの指針ごとに定めた進行管理指標について、各項目の4か年の推移をお示ししております。項目によっては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を強く受けている指標もありますが、特徴的な項目を抜粋して御説明申し上げます。

まず、1-①「人材育成等に関する研究実施件数」や1-②「人材育成等に関するセミナー数」につきましては、全体的にはまだ少ないものの、1-③「外国人留学生数」は年々増加傾向にございます。

次のページにまいりまして、2-②「観光入込客数」や2-③「プロスポーツ観客数」も、まだ減少傾向にございます。一方で、3-②「地元企業就職率」は、全体的に前年度よりも数値が上昇傾向にありますことから、コロナ禍の中で地元志向の学生が増えているのではないかとということが示唆されます。

次のページにまいりまして、5-①「中心市街地で展開する講義数」では、八戸工業大学の講義数が増えている状況となっております。さらに、次のページにまいりまして、6-①「社会人教育の講義数」では八戸学院大学において、6-②「公開講座数」では八戸工業大学において大幅に増えている状況でございます。今後も、コロナ前後で数値の比較等も必要となることから、引き続き数値の動向を注視してまいる所存でございます。事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷市長

ありがとうございます。ただいまの説明に対して御質問ございませんでしょうか。

ちょっと私の方からよろしいですか。6-①「社会人教育の講義数」では、八戸学院大学の講義数が40となっておりますが、どのような経緯でしょうか。

○事務局（八学大・田中）

こちらについては、文部科学省からの委託事業で「社会人に対するリカレント教育」という講座を本学として請けまして、本学にございます地域経営学部と健康医療学部の2学部で展開したことで、講義数がこのように40ということになっています。

○熊谷市長

ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。

それでは、続きまして案件3「八戸地域学」について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（八学大・田中）

それでは「八戸地域学」について御説明を申し上げます。資料3を御覧ください。まずは、「八戸地域学」創設の目的でございますが、地域の歴史や文化、地域の産業等を学び、地域への理解や愛着の醸成を図ることで、若者の地元定着につなげていくことを目的に、各高等教育機関共通の講義として実施するものでございます。

次に、「1. 名称について」でございますが、名称は、これまで付けておりました（仮称）を取りまして「八戸地域学」とするものでございます。

次に、「2. 講義について」でございますが、第1回目の講義は熊谷市長を講師に、10月24日月曜日、16時30分から八戸ポータルミュージアムはっちひろばで行います。第2回講義は、八戸工業大学の坂本学長を講師に、11月22日火曜日、16時から同じくはっちひろばで行う予定でございます。第3回講義につきましては、八戸商工会議所から講師を選定していただきたいと考えておりますので、商

工会議所の新体制が定まる11月以降に講師選定をしていきたいと考えております。実施日は、12月中旬までには行いたいと考えております。

次に、「3. 開講セレモニーについて」でございますが、八戸地域学は各校共通講義として実施するほか、広く市民にも聴講していただくこととしておりますことから、第1回目の開講前に、会頭や各学長同席のもと、市民向けにセレモニーを実施したいと考えております。開講セレモニーは10月24日月曜日、16時から行い、次第案といたしましては、熊谷市長から八戸地域学の設立趣旨の説明を含め御挨拶をいただき、その後、記念撮影を行うという流れを想定しております。

次のページになりますが、「4. 講義の進行及び配信について」でございますが、まず、講義時間は約60分とし、講義資料ははっちひろばに用意いたします、テレビモニターを使用することで、お集まりいただいた市民が見られるようにしたいと思います。また、講義終了後、その場での市民からの質問は受けないで終了したいと思っておりますが、学生につきましては、後日、動画視聴後にアンケート調査をいたしますので、その際に質問を受け付け、後日回答する形としたいと考えております。動画につきましては、当日ビデオカメラで撮影した映像を動画編集し、閲覧限定機能を活用したYouTubeにて各校に配信する予定でございます。

次に、「5. 周知方法について」ですが、産学官が持っているそれぞれの広報媒体にて、3回ございます八戸地域学を周知してまいります。

最後に、「6. 令和5年度八戸地域学について」でございますが、来年度は今年度の実施状況を踏まえつつ、1コマ多い4コマの実施を考えております。講師の選定などの詳細は、今後調整していきたいと考えております。合わせて、講師謝礼の有無等、予算等についても今後検討していければと考えております。事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷市長

ありがとうございます。ただいまの説明に対して御意見・御質問、そしてまた所見について各先生方から一言いただきたいと存じます。はじめに、水野学長からお願いします。

○水野学長

まず、名称について（仮称）を取るということで賛同させていただきます。そして、「2. 講義について」、今年度3回実施ということで、第3回目を今後検討していくということで承知いたしました。セレモニーについても特に異存ありません。「4. 講義の進行等について」も、提案に賛同させていただきます。周知の方法について、さらに良い方法があれば皆さんの御意見を伺いたいと思います。

令和4年度を終えて令和5年度以降につきましても、大学高等教育機関の学生・生徒に地域定着に目を向けてもらうというところがありますので、やはり地域の魅力や強みについてなど、そういうテーマの選び方について検討していただけたらいいのかなと思います。単なるイベントに終わらず、目的に沿った活動実績として積み上げていくことを期待させていただきたいと思います。さらには、大学生・高専の学生にとどまらず、高校生や将来的には中学生、こうした若い世代に対して地域の魅力をしっかりと伝えていけるような学問に発展させていく見通しを持つことも必要だろうということで、一言述べさせていただきます。以上です。

○熊谷市長

ありがとうございます。それでは次に、杉山学長、御発言をお願いします。

○杉山学長

私もこの資料に書いてある内容につきまして、特に質問や異論のようなものはございません。各校共通講義として実施するという事で、各校でどういうふうに活かすかということは、それぞれの大学の事情に合わせてということだったと思います。短大につきましては、前回もお話をさせていただいたと思いますが、幼児保育学科と介護福祉学科が来年度揃ってカリキュラムを改正しますので、その中に地域文化論をどちらも組み入れました。そのコンテンツとして、この八戸地域学を活用させていただくつもりであります。よろしくお願いいたします。

○熊谷市長

ありがとうございます。次に、圓山校長お願いします。

○圓山校長

今までの水野先生や杉山先生と同様でございます。これについては異存ございませんので、このまま進めていただければと思います。以上です。

○熊谷市長

ありがとうございます。次に坂本学長お願いします。

○坂本学長

私もこの資料に関しましては、全く御異論ございません。私が2回目の講師ということもありますので、今から準備を始めるところでございます。特に、水野先生が最初におっしゃったように、このテーマ・目的に沿うような形、そして高等教育機関の4校の学生・生徒が聞くということを踏まえながら、どういったことが今必要なのだろうか、改めて自分で噛み締めて準備をしているところでございます。

また、今回は、一般市民が参加して聞けるということもありますので、いざやとなったときに、学生に向けた話し方や視点と、一般市民に向けた話し方や視点は、やはり違うのだろうと当事者ながら感じており、うまい伝え方をなんとか探って当日に向けていきたいなと思っております。特に、来年度以降、さらに外部講師の方に4コマお願いするということになるわけですが、企業の方にも講師を担ってもらい、この八戸地域学という教育体系が八戸の特色になっていければいいかなと感じております。以上です。

○熊谷市長

ありがとうございます。次に、河村会頭お願いします。

○河村会頭

今、坂本学長が説明したとおり、学生と、我々が付き合っている中小企業の社長たちの視点は若干異なるかと思いますが、最近いろいろお話している中では、結構、中小企業の社長さんたちも地域学っていうのを少しは知っている、見てくれるのかなと思っています。そういうことで、すごくこの地域学は良い取組だなと感じています。昨日、この議事録を改めて読み直したら、この地域学って本当に大事なことだなと改めて感じました。以上です。

○熊谷市長

ありがとうございます。

私からも一言となっておりますが、坂本学長は2回目ということですが、私は1回目です。パワーポイントに慣れた人がいいのではないかと御指摘もありながら、結局私がということになりました。しかし、その後、何回か御講演をさせていただく機会もありまして、若干はパワーポイントにも慣れてきましたので、一生懸命やりたいなと思います。地域学の第1号ということで、やはり地域の産業はもとより理解・愛着醸成を図るということで、八戸の概要というテーマになっておりますので、まずは八戸の歴史、特に産業都市としての歴史を振り返った時に昭和39年の新産業都市指定、そしてまた今年20周年になりますが、平成14年の新幹線開業、あるいは東日本大震災からの復興ということを1つのポイントにしながら過去を振り返り、そしてまた理解・愛着ということになりますと、現状の八戸の魅力ということも語らせていただきたい。そして今年の4月より第7次総合計画がスタートいたしております。その中で将来像も示されておりますし、そこに向けた5か年計画も記され、そしてまた単年度ごとに戦略も推進するというので、その総合計画と戦略についても御説明をさせていただいて、学生・市民の理解、また共感を得たいと考えております。一生懸命やりますので、ひとつよろしく願います。私からは以上でございます。

あと何かよろしいでしょうか。

○水野学長

1点だけ事務局へ質問ですが、各大学・高専、この科目に対する単位化は検討されていますか。

○事務局（八学大・田中）

現状では、それぞれカリキュラム等の編成の仕方が違いますし、さらに単位化するとなると、おそらく文科省等への届け出も必要になってくることもありますので、今後の検討課題にさせていただければと思います。

○水野学長

地域の学びを豊かにするという事は各校共通だと思うので、やはり今後のカリキュラム改訂等、そういう時期を目指してイメージしていただければ、お互いの学びが相互交換できるように発展していくのではないかと思います。よろしく願います。

坂本先生のおっしゃった、市民が聞かれるということが大切だと思います。その時に、八戸の高等教育機関・大学はこうやって連携しながら地域の魅力や強みをテーマにして、広く一緒に学んでいきますということを市民に知っていただくというような、そういうことが大切な部分になっていくのかなと思っています。そういうものは、弘前市や青森市にはないことと理解していますので、八戸市の強み・魅力かなと思いますので、ぜひともそういう動きや取組こそが魅力的だということもお伝えいただければなと思います。よろしく願います。

○熊谷市長

はい、かしこまりました。ありがとうございます。あと、いかがでしょうか。

それでは、「その他」ということになりましたが、皆様からその他の件について何か御発言ございますでしょうか。

○圓山校長

資料2「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」の中の指針2のところ、「地域の中核的な産業、ものづくり、農林水産業、観光事業等の振興と雇用創出」という件について、1つコメントさせていただきたいと思います。

○熊谷市長

はい、どうぞ。

○圓山校長

本校の特殊事情ではありますが、ちょっとお話をさせていただきますと、先ほどの資料にもありましたように、本校には留学生がそれなりに来ております。中でもタイの留学生が多くて、先般、タイの教育省の副大臣がわざわざ来ていただいて、新潟県長岡市で国際会議をやりまして、これからの留学生について、向こうの文部科学省の役人や大臣、それから大学関係の方とお話をしました。そのときに、本校の取組をAIによる英語で説明をさせていただきました。ネイティブの人に言わせるとちょっと変だと言っていました、それでも聞きやすく非常に評判が良かったです。日本語のスク립トをAIで英語にして、若干手を加えましたけれども、それをAIが喋る。

AIが今発達してしまっていて、NHKの早朝のニュースは、みんなAIで喋ります。すでに、市役所の方にもお話していて、これからインバウンドが始まります。話がちょっと飛びますが、まずは円安の話。実は円安の前から、日本はなんであんなに観光客がいっぱい来るかというと、基本的に安いからです。バブルの頃の高い頃と全然違って、本当に安いです。今も私東京から帰ってきたばかりですが、東京の真ん中のビジネスホテルに2泊1万5千円で泊まりました。ニューヨークだったら10万とか、最低でも5万円以上かかります。そういう中で、早めにインバウンドに根ざした観光の振興というのを今から準備をされてはどうかと考えてございます。

そのためには、いろんな情報発信が必要ですが、八戸や近郊市町村のスクラム8、それからもっと離れた十和田湖、南部地域を全部含めた形での観光PR用の動画がいっぱいあると思うので、それをAIで英語化して、そしていったん英語化するとタイ語にも中国語にも割と簡単になるんですね。そういうものを八戸市が中心となって地域に展開して、それを八戸地域として発信していく。そういう準備を始められたらどうかなと思います。本校では、多言語化の作業を随分させていただいていますので、もし必要があれば学としてお手伝いもできると思います。

仙台にいたときにも申し上げましたが、八戸の観光資源だけを八戸から発信するというのはちょっともったいない。なぜかという、十和田に行っても三沢に行っても八戸に泊まるんですよ。要するに中心街のホテルや駅前のホテルとかに泊まって、それで観光に行きますから。ですから、八戸や近郊地域のいろんな素晴らしい資源を八戸市が中心となって、多言語で発信するお手伝いをしながら、この地域を盛り上げていく。夜は、市の中心街でみんなお金を落とすんですね、みろく横丁でお酒飲んでどっさり落としてくれるので、コロナ禍で止まっているからこそ、そういうふうなものを発信して国際的ないわゆるインバウンドの人たちを呼び込む。それが引き金になって飲み屋さんも繁盛するでしょうし、それだけではなくて中小企業でいろんな方たちがそこで活性化してくると、ひとりでに活気のある街になってくると思います。

他地域がやり始める前に、今のうちにいろいろ発信しておくとかボディーブローで効いてくるんじゃないかと思って、それで発言させていただきました。ちょっと長かったですが、以上でございます。

○熊谷市長

貴重な御提言・御発言ありがとうございます。今のことに対する御意見でも結構ですし、何か皆様の方から御発言ございませんでしょうか。

○水野学長

政策として非常に不安定な状況なので、圓山校長の提案は非常に意義があると思いますけれども、今後の状況、社会的な状況が非常に不安定な状況の中で順調に回復していくと読まれているか、それともいろんな状況が考えられるのでいろんな対応案を準備していかなきゃいけないというふうな総合的な政策の部分で、市長どのようにお考えでしょうか？

○熊谷市長

圓山先生のお話にあったインバウンドに関しては、今後徐々に回復してくるでしょうから、今のうちにいろんな仕掛けをやっていくというのは、全くその通りだと思います。全体的なものを見たときに、今のウクライナの問題から始まって物価高騰がこれからどうなっていくのかというのは、専門家でも見方がまちまちだという中で、今、市としてこれをどう持っていくかということは簡単には結論を出せないところはあります。ただ、先ほど地域学のところでも申し上げましたとおり、新しい総合計画と推進戦略をスタートさせたばかりで、5年先10年先を見据えた形でやっておりますので、その将来都市像に向かって着々とやるべきことを積み重ねていくということだろうなと思っております。

○水野校長

ありがとうございます。高専に非常に優秀な翻訳AIを使った翻訳ソフトというか、プログラムがあるということですよ。

○圓山校長

翻訳ソフトというのは一般的なソフトですが、AIの方は、本校でコロナが流行ったときに、全部オンデマンドの遠隔授業にして、フルスペックで2千コマぐらいありますが、それ全部AIで文字化して、それをAIで英語にして、そしてその後いろんな言語に展開して、そしてそれをAIで喋らせるというところまでいろいろやらせていただきました。そのときのノウハウとしていろんなものがございます。特に、固有名詞だとかちょっと技術的に難しくそういうのは別な形に入れなきゃいけないとか、AIが全部みんな日本語で喋ったやつをちゃんと訳してくれるわけではない。それからもう一つ、多言語にするときに日本語から中国語やタイ語にするのは駄目なんですね。日本の会社ではなくGoogleを使うので、まず英語にして、英語からいろんなものに展開するというのが必要です。あと、AIの翻訳はラテン語の翻訳まであるんですね。ラテン語の研究論文をそのとおりにアルファベットで打って、グーグルのラテン語というところに入れるとラテン語が日本語で出てくるんですね。ラテン語は日本でいう梵字みたいなものですけども。本校では、いろいろやらせていただいたので、そういうノウハウはあるので、市役所の方たちと協働させていただいて展開するというのも一つの考え方かなと思います。そのためには、八戸市だけじゃなくもっと地域に市が声を掛けて、市のお金でやる必要がある。お前のところでやれというと、そんなのやりませんとなってしまうので。さっき言ったように、その方たちはみんな十和田とかに観光に行っても八戸市の中心街に泊まってお酒を飲んでくれるので、そういうふうな産業の活性化に繋がるという視点でいくと、そういうこともできるというふうに考えております。

○熊谷市長

はい、ありがとうございます。よろしいですか。他にいかがでしょうか。

それでは、事務局におかれましては、本日いただいた各委員の意見を踏まえつつ取組を進めて、次回の会議にて進捗等を御報告願います。それでは司会に進行をお返ししたいと思います。

○司会（八工大・高橋）

はい、ありがとうございました。最後に、今後のスケジュールの御確認でございますが、次回は令和5年2月3日の開催を予定しております。開催が近づきましたら、改めて御案内差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして「令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議」を終了いたします。本日はありがとうございました。